

RPJ News

2017年 12月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋二丁目

毎月1回発行 E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

連絡先 090-1811-7119

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

内 容

* イタリアセミナーツアー事務局報告

社会福祉法人ひつじ(協会実行委員) 大田 佳代

* イタリア地域精神保健視察ツアーに参加して

社福)ひつじ 生活支援センターいつでもおまえざき 佐藤 奈巳

* イタリアセミナーに参加して

社福)ひつじ 生活支援センターいつでも 菊池 義人

* 第12回イタリア地域精神保健視察研修

公益財団法人正光会 中野 良治

* イタリアから学ぶこと

社福)ひつじ たんぽぽ共同作業所 中村 美里

* イタリアセミナーツアー事務局報告

社会福祉法人ひつじ(協会実行委員) 大田 佳代

平成29年11月20日～29日、第12回イタリア地域精神保健視察ツアーが開催されました。ツアーの内容はアレツォ、ヴェローナ、トリエステを視察するというもので特に変わったことはありません。今回、私は事務局としてこのツアーに参加しました。立場が変われば見方も変わるのは当然のことで、今までのセミナー参加とは全く違ったいろいろなことを経験させていただきました。

事前の打ち合わせで、様々なことを確認、細かな資料もいただきました。「何か」あったら、それはそれ、何とかなるだろうと腹をくり飛行機に乗り込みました。10時間が過ぎ乗り継ぎのため降り立ったミュンヘンの空港で「何か」が起きました。掲示板を見ると、次に乗る予定の飛行機が2時間遅れと表示されています。到着が遅れることを迎えに来てくださる通訳さんに伝えておこうと、電話をしてもらっても何やら外国語のアナウンスが流れるばかり、現地JTB事務所もつながらず、日本に連絡するもつながらずでちょっと焦りましたが、まあいいか、飛行機が遅れることは珍しいことではないし・・・と早々に連絡することは諦めました。約4時間をミュンヘンの空港で過ごすことになったおかげで、みんなで一緒にのんびりビールを飲み、ソーセージを食べることが出来ました。こんな出来事から始まりま



フィレンツェ便の遅れ発見



ミュンヘン空港で一休み

したが、その後のセミナーはいたって順調でした。参加者の皆さんは旅慣れた方が多かったこともあり、皆さんが不慣れた事務局につきあい、支えてくださいました。セミナー前とはとにかく緊張するばかりでしたが、実際に目の前にいるみんながあれこれと言いながらセミナーを作り上げていくことが出来たと感じています。そして10日間の研修を終えて全員が無事に帰国できたことにホッとしたとともに感謝しています。

参加者の皆さん、おつかれさまでした。そしてありがとうございました。

* イタリア地域精神保健視察ツアーに参加して

社福)ひつじ 生活支援センターいつでもおまえざき 佐藤 奈巳

法人内の職員が続々と参加し「いずれは自分も・・・」と思いながらも、日々の生活から離れがたく先延ばしにしていたイタリアツアーへ、ようやく今回参加することができました。決心するきっかけを作ってくれた理事長および大田さん、快く送り出してくれた職場の皆、本当にありがとうございました。

参加してみたの感想は一言「参加して良かった」です。

見るもの・聞くことに純粋に興味を持つ、疑問を抱く、素直に質問ができる、そんな当たり前であったはずのことを久しぶりに体験し、解放された自分を楽しむことのできたツアーでした。知らず知らずのうちに「こうあるべき」「こうなくてはいけない」と自分で自分を縛り窮屈な自分になっていたことに、気付くことのできたツアーでした。

初参加であるという立場や海外であるという非日常が私の気を大きくしたのかもしれませんが。でもそれに加えて忘れがたい、多くの出会いのあったツアーでした。視察先で対応して下さる方々の温かく力強い雰囲気。ツアーを共にした方々の熱量。それらの出会いが私に勇気と安心感を与え、解放に導いてくれたような気が今はしています。

窮屈な私がする仕事はきっと窮屈なものになっていると思います。できることであればいい仕事がしたい。おもしろい仕事がしたい。人生を楽しむということ、人を大切にすること、尊重し合うということ、そんなことを模索しながら、今回のツアーでの体験を大切に、また日々を送っていきたいです。

最後になりましたが、ツアーを通し触れ合うことのできたすべての人たちに感謝の気持ちを伝え私の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

* イタリアセミナーに参加して

社福)ひつじ 生活支援センターいつでも 菊池 義人

11月20日～29日までイタリアセミナーに参加してきました。

H26年に行って以来、2度目の参加でした。

前回は、H26年7月にダルコ先生が静岡に来日されて、お話を聞き是非一度本場のイタリアを見たいという強い想いで参加しました。今回は、法人が事務局ということで、理事長以下5人の人間がイタリアへ行くことが決まっており、当然自分は留守番だろうと思っていました。ところが、うちの親方、藤田から締切り直前突如として「イタリア行って下さい」との言葉が出て行くこととなりました。日々の仕事に追われとてもとても行く気持ちにはなれないし、当日まで行けないのではとの不安を抱えながらの参加となりました。

そんな中で、自分を救ってくれたのは、全国各地で活躍をしている様々な職種の参加者の人たちでした。中でも薬剤師のお二人の参加は今までとは違う見方や刺激を与えてくれました。普段 Dr.や Ns.との関わりはあるのですが、薬剤師となると受診同行をし、薬局で利用者の方と一緒に薬の説明を聞くといった程度の関わりしかない私に、薬剤師が訪問できることなど、基本的なことを聞けるいい機会となりました。また二人の人柄や知らないことを勉強しようという熱心さにも感銘を受け、救われ楽しい旅となりました。また御荘や尾道など協会のつながりで、出会った人からも元気をもらい 10日間を無事に過ごすことができ、結果的に楽しい研修となりました。

アレツオでは 2年ぶりにダルコ先生にお会いすることができ、最終



ダルコ先生と

日に熱い抱擁をしてもらったこともとても嬉しいことでした。

その中で、私なりに研修の中でもお伝えしたいことがあります。

それは、アレツォ総合病院精神棟内視察でのことです。総合病院に精神科のベッドがあることは、ご存知の方もいるかと思いますが。それよりも病棟内に喫煙室があることにインパクトを受けました。欧米では基本、公共施設内では禁煙でホテルでも何でも徹底しています。その中で喫煙室を作ったというのです。作るのはいささか苦勞をされたとボルケージ先生は言うておられました。それでも患者さんの治療に必要だと作ったのだそうです。何でもかんでも四角四面に禁煙禁煙と言っている日本のとの違いを決定的に感じました。誰を中心に物を考えるのかを改めて考えられることでした。

ちなみにイタリアでは一歩外に出ると、子どもを連れた母親でも女学生でも普通に歩きタバコはしているし、ポイ捨てはしているのです。久しぶりに今の日本ではできない歩きタバコを満喫してしまいました。おかげで日本にいるときよりタバコの本数が増えてしまいました。脱線しました。

最後に、セミナーに参加された人に出会えてこと、再びダルコ先生に会えたこと、通訳でジャーナリストの佐藤さんと出会えたことに感謝をしたいと思います。ありがとうございました。

また、皆さんに会えるのを楽しみにして…。

* 第 12 回イタリア地域精神保健視察研修

公益財団法人正光会

中野 良治

平成 29 年 11 月 20 日～29 日までの 10 日間の行程で今年のイタリア研修は実施された。参加者は、精神科医・看護師・薬剤師・PSW の総勢 10 名。羽田空港に集合し結団式と自己紹介を済ませ 12 時 40 分ルフトハンザ LH715 便で経由地であるミュンヘンへ。予定通りミュンヘンに 17 時頃到着し、次の目的地フィレンツェへの乗り継ぎでトラブル発生。現地時間 19 時 35 分発の予定が 21 時 10 分発に変更に。ミュンヘン空港内で約 4 時間の足止めとなった。4 時間何する？集合時間だけ決め一旦解散し、各自自由行動となったがいつの間にか全員集まってドイツビールを美味しくいただきました。その後、フィレンツェに到着し通訳の佐藤康夫さんと合流し、チャーターバスにて翌日からの研修地であるトスカーナ州アレツォへ。ホテルに到着したのは 0 時頃だったでしょうか。飛行機の遅れもあり、皆さんお疲れの様子で、翌日の集合時間を確認し就寝した。

21 日研修初日は、日本にもお越しいただいたダルコ先生（現在、裁判所の鑑定医として勤務）の講義からスタート。ホテルまで出向いて下さりロビーで、アレツォの地域精神保健の概要説明の後は、参加者から多数の質問があった。イタリアは財政難が続いており、精神保健分野の予算も削減されていることや、政治的な問題や移民問題など問題は山積しており、国の将来を考えると必ずしもいい状況ではないとのことであった。レクチャーの後は、ホテルから徒歩で精神病院跡地（現シエナ大学アレツォ校）の各所をダルコ先生が案内しながら説明をして下さった。視察後は少し遅めの昼食をとり、休憩後、希望者



アレツォ総合病院、喫煙室



チャーターバス(フィレンツェ空港)



ダルコ先生(ホテルロビーで)



精神病院跡地にて

は夕食までの間ダルコ先生とのディスカッションの時間となった。(私はベッドで少し横になるつもりがそのまま寝入ってしまい、気付いた時には夕食の集合時間でした…)

夕食はダルコ先生おススメのステーキ店で豪快な T ボーンステーキをいただき、その後夜のアレツォ散策へ。ダルコ先生が様々な観光名所を案内してくださりました。(かなりの距離を歩きました)心地よいワインの酔いと身体の疲れ、夜の幻想的なアレツォの街並みに酔いしれて研修初日は終了。



ダルコ先生お勧めの店



22日アレツォ研修2日目は、朝から電車でカムチア・コルトーナ駅まで移動し、ヴァルディキアーナ地区の「コルトーナ保健の家」へ。精神保健センターのボルゲージ先生よりお話をいただいた。家族医との連携がすぐに取れることや個人のリハビリプログラムに基づいた在宅サービスの充実、症状が悪くなる前の予防に関する取り組みなどを行っており、人口約5万人の地区で昨年は入院者が30名、今年は15名程度になる見込み。ただこの地区でも現在のサービスを維持していくためには財政難の問題が大きな課題とのことであった。



アレツォからコルトーナへ

その後、仕事の関係で朝から同行できなかったダルコ先生も合流され、車でコルトーナの歴史地区へ向かい昼食と散策。高台にある街は城壁に囲まれ、周辺にはオリーブやブドウ畑が広がっている本当に素敵な街並みでした。夕方電車でアレツォに戻り、ホテル到着後はスーパーへ買い物に行く人、レストランへ行く人、日本からのメールでパソコンに向かう人等自由行動となった。



コルトーナ保健の家にて



ボルゲージ先生と昼食

23日アレツォ研修3日目、朝から徒歩でアレツォ精神保健センターへ。チェーザリ先生よりお話をいただいた後、アレツォ総合病院内にある救急センターを見学。どこでも財政の厳しさの話があり、継続したサービスを提供するため模索していることが伺えた。



チェーザリ先生のお話

見学終了後、3日間お世話になったダルコ先生とはここでお別れとなり、ホテルに戻る途中に昼食をとり、チャーターバスで次の研修地ヴェローナへ向かった。予定通り19時頃にホテルへ到着しその後は各自自由行動に。古代ローマ時代に建設された円形闘技場アリーナや



ダルコ先生とのお別れ



ブルチ先生(ホテル会議室)

多くの教会など、歴史的建造物があちこちにあり、またクリスマスシーズンで街も賑やかで時間も忘れ夜歩き回った。

24日ヴェローナ研修1日目、9時30分よりブルチ先生よりホテル内の会議室でイタリアの精神科医療の変遷、バザーリア法のこと、ヴェローナ

地区の取り組み等々のお話をいただいた。昼食を大急ぎで済ませ、タクシーで南ヴェローナ精神保健センターへ。取り組みの説明と質疑応答の時間を取っていただいた。夕方にはセルフヘルプ・サンジャコモのグループホームも訪問させていただいた。研修終了後は一旦ホテルへ帰り、しばらく休憩した後、夕食はブルチ先生ご夫妻をお招きしての会食へ。ブルチ先生がおススメのエビやムール貝などの海鮮が山盛りのパスタとワインで交流させていただいた。あまりの量の多さにみんな表情が固まったが何とか完食し、夜のヴェローナの街を散策しながらホテルに着いた。内容の濃い一日で、みんな少々お疲れの様子。



ポツァンセンター長(保健センター)



セルフヘルプのグループホーム



ブルチ先生ご夫妻と夕食

25日 11時までは自由観光でヴェローナ市街を各々散策。各自昼食を済ませた後、14時チャーターバスでトリエステへ向かった。夕方予定通りにホテルに到着。地元のスーパーへも買い出しに行った。



ヴェローナのアレーナ



26日 9時にホテルロビーに集合し、タクシーでサンジョバンニ精神病院跡地へ。小雨で強風が吹き寒さを感じながら、通訳の佐藤さんに解説を

いただき各所視察。翌日も同地区へ来る予定のためこの日は短時間での視察で終了となった。行きはタクシーを利用したが、帰りは徒歩で帰路についた。途中、100年以上続いているカフェ・サンマルコに立ち寄りカプチーノで一息つき、屋台で昼食をとった。午後からはフリーのため、佐藤さんがトリエステの街の隅々まで案内してくださった。過去に参加された方からもトリエステの街をこんなに歩いたのは



トリエステ保健局とマルコカパッロ

初めてとのこと。トリエステは港町で建物も今までの街とは違い、別の国に来た雰囲気であった。夕食は、まだイタリアに来て食べていなかったピザを食べようということになり全員でピザ屋さんへ。



ガンビニ精神保健センター



共同住居にて

27日 9時にホテルロビーに集合し、精神保健センターを訪問させていただいた後、昨日に引き続きサンジョバンニ地区へ。急遽、郊外にある共同住居を見学させて

いただけることになり、車で大急ぎで向かうことになった。入居されていた方々は3名で、社会協同組合から24時間365日スタッフが交代で勤務し3名の方のサポートをしているとのことであった。昼食の予約の時間も迫っていたため、再度サンジョバンニ地区へ戻り社会協同組合が運営するレストランで昼食をとった。予約が入っていなかったハブニングはあったものの席も準備してくださり、午後から救急センターへも予定通り訪問することができた。夕方、今回の研修最後の訪問先であるジェンダープロジェクトで様々な立場の



救急センター



ジェンダープロジェクト

女性支援のお話を伺い、全研修プログラムは終了となった。夕食は最後の夜ということで、全員でお疲れ様会。イタリア料理に少し飽きたこともあり、ドイツビールとソーセージで乾杯。ライトアップされた統一広場や運河など夜のトリエステもとても綺麗でした。

28日9時30分日本へ向けチャーターバスでホテル出発しトリエステ空港へ。通訳の佐藤さんとはホテルでお別れとなった。帰りの飛行機は予定通りで、ミュンヘンを経由し羽田へ。29日11時羽田到着。協会の長野理事長、事務局仁木さんが到着ロビーで出迎えて下さった。最後に今回の研修ツアーで団長をされた大田さんと、様々なサポートをしてくださった中村さんからご挨拶をいただき、第12回イタリア地域精神保健視察研修は無事終了し解散となった。



統一広場



ミュンヘン空港経由で帰国

* イタリアから学ぶこと

社福)ひつじ たんぽぽ共同作業所

中村 美里

イタリアを訪問し、たくさんの精神保健にかかわる方のお話を伺い、一番感じたことは、医師も看護師もケースワーカーも、すべての人がモチベーションをもって仕事に取り組んでいた、ということです。そして、精神疾患のある人たちに対し、誠実に、驕りなく、人と人として付き合います。そうすることによって、患者は自尊心を失わず、人を信頼し、治療に対する意欲をもち、早期回復につながるのだと思います。

イタリアと日本は、社会構造も習慣も民族性も違います。すべてイタリアのマネをしたら精神科病床数が減る、などということはないでしょうし、そもそも固有の歴史の中で培われたイタリアの精神科医療、精神保健福祉と全く同じことが日本ですぐにはできるとは考えにくいことですが、一人の患者と向き合う姿勢、相互にかかわるときの在り方などは、すぐにでも取り入れ、実践することが可能だと思います。



アレツォ総合病院内の救急センターにて

まずは今在る目の前の利用者に向き合い、誠実に、驕りなくかかわり、小さな一歩から始めていこうと考えています。



—編集後記—

今年唯一の事業として実施したイタリア地域精神保健視察研修ツアーが無事終了し、今回参加者から頂いた原稿を掲載することが出来ました。イタリアの精神保健への思い入れや、各々の現在の立場などから色々な感想を持ち、それぞれ何かを持ち帰って頂けたと、そして何かの糧になってくると信じております。

協会は今年体制若返りの第1弾を実施しました。そしてイタリア以外にもトロントや帯広リフレッシュセミナーを企画しましたが、天候などの要因で実施できず皆様には多くの失望を与えてしまいました。来年は皆様に喜んでいただける企画、多くの皆様に参加いただける企画を中心に協会事業を進めてまいりますので、2018年は、より一層益々のご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。本年はどうぞ有難うございました。(Mamoru Niki)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL090-1811-7119